

2003年度 第10期 地球市民アカデミア



第10期生 募集要項

- 開催期間
2003年5月～2004年2月(全14回/合宿3回を含みます)
- 募集対象
・国際協力や国際教育の分野で活動したいという意欲のある人
・原則として全回参加できる人
・18歳以上の人
・他の受講生と協力しながら受講できる人
- 定員 35名(先着順)
- 参加費用 49,800円
・登録費、受講料、資料代等が含まれます
・合宿費用は別途費用がかかります
- 会場 東京YWCA(東京都千代田区神田駿河台1-8)
- 募集締切 2003年4月23日(水)必着
- 申込方法
所定の用紙に必要事項(氏名、住所、電話番号、所属、志望動機)をご記入の上、下記までお送り下さい。
FAX、E-mailにも受け付け可

●お申し込み・お問い合わせ「地球市民アカデミア」事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷4-2-8、6F 東和大学国際教育研究所内
TEL:03-5804-4366 FAX:03-5804-4367
E-mail:academia@csc.jp URL:http://www.gc-academia.org



受講生の声

地球規模の問題を考える際にふり当たったのは、まさに自分の足元、自分の心の内でした。そして「目を向けていなかったもの、聞かされてこなかったもの」に目を向け、聞くことの重要性に気づきました。

吉田重樹(栄養士 7期生)

私はアカデミアで「よく生きる」方法を学びました。共通学習で「気づき」について深く掘り下げ、特に環境教育の分野に興味を持ちました。…すべてのものとのつながりを感じる。そんな感覚がいろいろある講座です。

木部優子(青年海外協力隊員 2期生)

職業、世代など生活背景の全く違う人々の集まりなのに違和感がなく、本音で付き合える仲間と出会う場所。学生も社会人もみんなの心が自然に通る「アカデミア空間」はみんなが元気をもち、貴重な場所でした。うちでも共に学んだ仲間がいます!

横山梨子(NGOスタッフ 1期生)

仕事をしているうちに疑問が湧いてきたものの見方、生き方などを一旦置いて再構築する機会を与えてくれた場所。講師からはもちろん、受講生や運営委員との関わりの中で気づくことが多かったです。グループで作成した「たばこ」教材は大阪のコンテストで入賞!現在も教材に改良を加えながら活動中。

杉本伊知朗(会社員 6期生)



アカデミアは仕事も年齢層も様々、多種多様な人と自由に話し、色々な人の考え方が聞けるところ。私自身も学生時代と考え方が変わった自分を発見することができました。アカデミアは自己発見・再認識の場になるのではないのでしょうか。

鈴木達(植木職人 5期生)

国際協力や地球環境などの諸問題、はたまた人間について、講義とワークや体験を通じて、アカデミアならではの世界観が展開されます。世間ではマイナーなことがここではメジャーなこと。同じ疑問を共有し、共に考える仲間に出会うために、是非、只ひ込んでみて下さい。

志津安記(市役所職員 8期生)



共催団体

東和大学国際教育研究所

1978年に設立され、主に開発教育・アジアにおける国際教育協力・NPO活動に関する調査研究を行っている大学付属の研究所です。地球規模問題への洞察力と気力に有する地球市民の養成を目的に、地球市民アカデミアの創設と企画運営に携わっています。

(特活)開発教育協会(DEAR)

公正な地球社会をめざす開発教育の推進を目的に1982年に設立。各地で取り組まれている開発教育の試みや働きを側面から支援するために、情報誌の発行、情報センター、全国研究集会、教員セミナー等を行っています。

協力・後援団体

様々な団体の協力を得ながら広いネットワークの中で進められています。

(準学)アジア学院

アジア・アフリカ諸国からの研修生が、実践教育の実績を持ち、卒業生は福祉現場で高い評価を得ています。福祉分野の様々な変化に対応できる実力のある社会福祉・介護福祉の専門家を養成しています。

東京YWCA専門学校

(特活)国際協力NGOセンター

地球規模課題に取り組む市民組織NGOの活動支援を目的に、NGOに関する情報収集、提供、広報、調査研究、人材育成、国内外のNGOとのネットワークを進めています。

(社)協力隊を育てる会

民間の立場から青年海外協力隊事業への理解を深め、協力隊活動に対する支援の輪を広げることを目的に、情報誌の発行や各地で国際理解セミナー等を行っています。

東京ボランティア・市民活動センター

都内のボランティアやNPOに対する情報提供や相談などを通じて、市民のボランティア・市民活動を支援しています。その他、調査、研修、会議室貸出、活動助成等を行っています。

『地球市民アカデミア』とは

貧富格差の拡大、地球環境危機の高まり、民族紛争の激化など、世界をめぐる状況はますます深刻化しています。そのような世界の状況に対して、私たちは一人の地球市民として何ができるのでしょうか。「地球市民アカデミア」は、国際協力や国際教育を通じて世界への働きかけを志す人々のための新しい学びの場です。

<同時代を共に生きる地球市民>

国際協力や開発援助に関する様々な意見がありますが、異なった社会状況の中、厳しい条件の下にある人々と共に生きようとするものは、学問の枠におさまるものではありません。これからの地球社会に求められているのは、発展途上国といわれる国々に生きる人々を援助や研究の対象として見るのではなく、同時代を共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

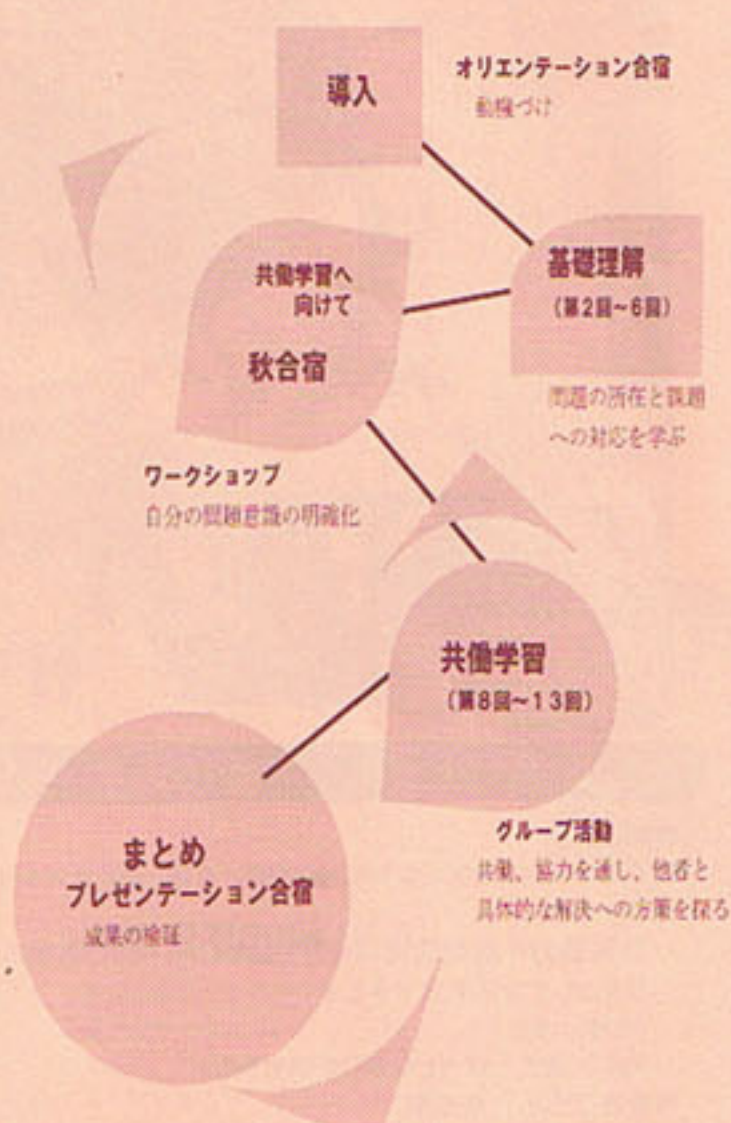
<地球市民アカデミアがめざすもの>

この講座では、将来国際分野での活躍を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、必要な専門知識やものの見方を学ぶと同時に、実際に国際協力や国際教育に携わる人々の経験に学んだり、自ら選んだテーマを追究し、活動現場への訪問などを通して現実感のある学びを創り出します。そして、なぜ国際協力を必要と考えるのか、どう関わりたいのか、何ができるのかを深く掘り下げながら、自分自身の価値観を問いただし、これからの社会を創っていく上で大切な他者との協力関係の築き方を学んでいきます。

<共働学習による新しい学びのスタイル>

従来、講座という講義を受けるというイメージがありました。しかし、実際に国際協力、国際教育を実践していくには、知識や情報を身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていくことが必要です。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて、異なる背景や意見を持つ受講生同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びのスタイルを提案しています。

「地球市民アカデミア」の流れ



地球市民アカデミアは今年で10年目を迎えました!



10年目を迎える地球市民アカデミアは、多数のオプション企画を予定しています。海外に滞在している修了生を訪ねるスタディツアーや様々なテーマに合った国内スタディツアーの実施。修了生たちの集まりである「アカデミア・ナツ」の同窓会開催など、多くの人と交流する機会が盛りだくさんです。もちろん10期生もオプションで参加(基本的に実費)することができます。学びの場としてのアカデミアを是非、最大限に活用してください。



1 オリエンテーション合宿

『環境と共生』
5月23日(金)夜～25日(日)
於:アジア学院
講師:高見敏弘氏
【地球市民アカデミア校長、アジア学院創設者】

「国際協力とは?地球市民とは?」を考える前に、まず土や緑、そして「いのち」に触れてみませんか。2泊3日の合宿ではアジア・アフリカ諸国からの研修生が学ぶ都須のアジア学院に体験入学し、農作業等の体験を共有しながら、これからのアカデミアでの学びの方向性を探ります。



4 『貧困と福祉』

～幸福を夢見る権利～
6月28日
講師:笹沼弘志氏(静岡大学教員(福祉専攻))
野宿者のための静岡バトロール事務局

豊かといわれる日本の中にも仕事や住む場所を失った、最低限の生活条件を奪われた人々があります。彼らは「普通の人」にとっては当たり前な生活を夢として描くことすら叶いません。世界の貧困問題と日本のホームレス問題を通じて貧困と福祉のあり方について考えます。

7 秋合宿

『自分の足元を見つめて』
9月20日(土)～21日(日)
講師:金野野氏
【(財)神奈川県国際交流協会】

世界の諸問題に関わっていくためには、まず自分が社会のどこに位置しているのかを知ることが大切です。世界や社会を問う前に、私たちは隣の「他者」と望ましい関係性を築くことができているか、自分のアイデンティティはどこにあるのかを考える必要があります。自分の足元を見つめ直すワークショップを行い、後期の共働学習へつなげていきます。

地球市民アカデミア 第10期 カリキュラム

※合宿以外の受講日はいずれも土曜日13:30～17:00です。

2 『国際協力の現場から』
5月31日
講師:喜多悦子氏
【日本赤十字国際部】

世界では紛争が絶えず、貧困に苦しむ人々があり、国際的な援助が必要とされています。現場で本当に求められている援助とは何でしょうか。紛争地域へ日本初の派遣医師として保健医療や難民援助に従事されてきた講師の体験から実状を学び、私たちに何ができるのかを考えます。

5 『「私」のことは私が決める』
～性と生の自己決定～
7月12日
講師:米沢泉美氏
【IT技術者、トランスジェンダー】

「私」とは何によって規定されるのでしょうか。外見? 染色体? 社会の? 法律? ... 10人いれば10通りの「性」と「生」があるはず。「性」を考えることは「生」を考えること。戸籍や住基ネットなどの制度がつくり出す問題を通して、性別やアイデンティティ、生き方の多様性と共生について考えます。

3 『世界の読み方・語り方』
6月14日
講師:野中重弘氏
【アジアプレス、ジャーナリスト】

私たちは常にテレビ、新聞やインターネットなど様々なメディアを通して膨大な情報に接しています。果たして、それらの情報を単に「事実=真実」として受け止めてよいのでしょうか。9.11、イラク情勢や北朝鮮問題など溢れる情報をどう読み取り、どう自分の力で語っていくのかを考えます。

6 『学びの広場をつくる』
7月26日
講師:若川直樹氏(埼玉大学)

自分の中におきこえる疑問や好奇心は学びの出発点です。それが他者や社会につながっていき、何か変化を生み出していく力になるでしょう。学びの場を豊かなものにしていくために、お互いの声を聞きあい、関係を積み重ねていくこと、その「協働の知恵」について語っていただきます。

8～13 共働学習
9月27日・10月11日・10月25日
11月8日・12月13日・1月17日

グループ内での学びを通じて、共に協力することを体験します。自分自身のテーマを明確にした上で、グループごとのテーマを決定し、共同作業に入ります。NGOへの訪問、イベントの企画や国際教育教材の作成など、各グループ独自の活動を展開します。



14 プレゼンテーション合宿・修了式
2月7日(土)～8日(日)

この合宿では、半年間にわたる学びやグループ活動の成果を互いに発表し合い、共有します。今までのあなたとどう変わったのでしょうか? 修了式を経て、地球市民としての次なるステップへとつながっていきます。

